様式第3号

平成24年度自己評価表（計画）

今年度の重点目標（学校経営目標）	
ア	中高一貫教育校にふさわしい教育課程の検討及び工夫・改善
イ	進路目標実現のための進路指導の充実
ウ	中高連携した生徒指導の充実
エ	学校行事、生徒会活動、部活動等の精選・充実
オ	開かれた学校づくりの推進
カ	予算の適正な執行管理、学校事務の円滑な遂行及び教育環境の整備

〔共通〕

領域	ねらい	評価項目	項目番号	達成目標	当該重点目標記号	昨年度の実績
学校経営	適切な教育目標の設定	生徒･学校･地域社会の実態に即した教育目標を設定する。	1	中高一貫教育校として、中等部及び高校の特色並びに中高の連携の在り方を明らかにし、それらに応じて新たな目標を設定する。	ア	年度当初に分掌、学年、教科等の目標・計画を定め、年度末に評価を実施した。
	開かれた学校づくりの推進	教育活動の内容等について保護者や地域等への情報発信に努める。	2	①土曜オープンスクールの参加者数800人以上 ②文化祭への保護者及び一般参加者数1200人以上 ③ＰＴＡ総会への出席率50%以上 ④地区会への出席率50%以上 ⑤学校ホームページの更新の充実	オ	①1418人（第1回475人：第2回411人：第3回532人） ②ステージ部門675人、一般公開1357人、合計2032人 ③中等部54.2%：高校59.6% ④中等部58.8%：高校48.7% ⑤毎日更新中
		学校が有する教育機能や施設等の開放を通して、生涯学習センターとしての機能の充実を図るとともに、地域の人材の活用を図る。	2	体育館、グラウンド等の学校施設の開放を積極的に行う。 大学を始め、県立美術館・県文化財団等の外部機関との連携事業を充実させる。	オ	体育施設の開放を頻繁に実施した。 中等部：韓国講座、韓国語講座、韓国文化実習、職業講座を実施した。 高校：県大出前講座、キャリア形成講座を実施した。
	事務の適切な執行	表簿等の管理を厳正に行うとともに、事務の効率化、セキュリティの徹底を図る。	3	校内LANを利用した安全なファイル管理を研究するとともに、個人情報保護に対する職員の意識高揚を図る。	カ	成績処理などの作業を複数人で行うことを徹底するとともに個人情報データの持ち出しに関するルールを厳守した。
	組織的･機能的な学校運営	各分掌間の連携を図り、教職員の共通理解に基づいた教育活動を行う。	4	中高が連携した分掌運営を推進する。	ア	新しい分掌組織の下で課内の業務が効率的、機能的に運営されることを目指し取り組んだ。
教育課程	生徒の実態等を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施	教育目標、重点目標及び生徒の実態等を踏まえた教育課程を編成・実施するとともに、点検・改善に努める。	5	平成25年度及び26年度入学者に対する教育課程を適切に編成する。	ア	25年度教育課程を適切に編成した。26年度教育課程の編成についてはほぼ終了している。
教科指導	基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実	授業改善の推進を図る。	6	①各教科において生徒の学力分析、授業研究を推進するとともに、授業改善を図る。 ②中高相互の授業参観を積極的に推進する。	ア	生徒による授業評価を2回実施するとともに6月と11月に公開授業週間を設け、中高相互を含めた授業参観を実施した。
		個に応じたきめ細かな指導を行う。	6	授業が分かると答える生徒の割合70%以上を目指す。	ア	高校において「わかる授業」への取り組みを一層強化する必要がある。 中等部：85.4% 高　校：66.7%

様式第3号

領域	ねらい	評価項目	項目番	達成目標	当該重点目標	昨年度の実績
教科指導	自ら学び、自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質能力の育成	授業形態や教材の工夫・改善を図る。	7	生徒による授業評価をより効果的に活用する方策を探る。	ア	職員会議において、分析担当者が結果の説明を行うことにより問題意識の共有化を図り、個々の効果的な活用に努めた。
総合的な学習の時間	自ら学び、自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質・能力の育成	指導体制を整備し、計画的に推進する。	8	新しい学習指導要領を踏まえ、今後の「総合的な学習の時間」の在り方を検討する。	ア	教務課で学習指導要領の改訂に伴って「総合的な学習の時間」の在り方を検討した。
		教科との関連付けに留意し、体験的な活動等による学習の充実を図る。	8	図書館等を活用した体験的な活動の充実を図る。	ア	中等部においては図書館を活用し調べ学習を実施した。 高校1年生において図書館を活用した実習を実施した。
		目標を踏まえた学習活動を実施し、指導と一体化した評価を行う。	8	指導と評価の一体化についての研修を深める。	ア	評価に係る学年会議を学期に1回実施し、指導と評価の一体化に努めた。
特別活動	社会性及び自主的、実践的な態度の育成	教育目標を踏まえ、創意工夫を凝らしたホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の推進を図る。	9	生徒自らが企画運営に携わる特別活動を実践するとともに、年間２回以上の講演会を実施する。	エ	「素敵な大人」講演会、「探求と表現」講演会を各1回実施し、生徒の視野を広げるとともに進路や学習に対する意欲を高めた。
		直接的な体験活動の充実を図る。	9	全校及び委員会等での奉仕体験活動を実施する。	エ	三保海岸の清掃活動（浜清掃）を実施した。美化委員会による学校周囲の側溝清掃を定期的に実施した。
部活動	生徒の自主的・自発的な活動による学校生活の充実	指導方法等について工夫・改善を図る。	10	中高一貫教育校にふさわしい部活動の在り方を探る。 部活動に一生懸命取り組んでいると答える生徒の割合70%以上	エ	中等部に卓球部を、高校に女子バスケットボール部を新設し、部活動の活性化を図った。 部活動に一生懸命取り組んでいると答える生徒の割合 中等部：82.4%　高校：71.2%
生徒指導	基本的生活習慣の確立	欠席・遅刻等の減少を図るなど基本的生活習慣の確立に努める。	11	１日平均の欠席者数、遅刻者数それぞれ10人以下	ウ	一日平均の欠席者数13.1人 一日平均の遅刻者数6.4人
	モラルの育成	マナーや社会的規範意識の育成を図る。	12	服装、頭髪、挨拶の指導に加え、マナーや社会的規範意識の育成について、職員の共通理解の下、徹底した指導を図る。	ウ	職員の共通理解の下、服装、頭髪、マナー指導を継続的に行った。
	安全教育の充実	生徒の防犯意識及び安全対応能力の向上を図る。	13	交通安全教育を充実し登下校時の交通事故の削減に努める。	ウ	自転車マナーアップモデル校として、警察とトラック協会による交通安全教室を4月に、保険会社による自転車事故加害責任についての交通安全教室を9月に実施した。 また、生徒交通委員、PTAによる街頭指導を実施した。
進路指導	望ましい勤労観・職業観の育成	就業に関わる体験的活動や計画的・体系的なキャリア教育を推進する。	14	ＬＨＲ及び総合的な学習の時間へのキャリア教育の位置づけを見直すとともに、外部の人材活用を図る。	イ	外部の人材を活用した講演会を通して勤労観・職業観の育成に努めた。
	主体的に進路を選択し、自己実現を図ることができる能力の育成	進路希望達成のための指導の充実を図る。	15	①普通科卒業生に占める４年生大学への実合格者の割合90%以上 ②普通科卒業生に占める国公立大学への実合格者の割合50%以上 ③芸術科卒業生に占める音大・美大への合格者の割合90%以上	イ	普通科４年制大学 実合格者数：70.0% 普通科国公立大学 実合格者数：29.1% 芸術科：芸術科音大・美大 実合格者数：76.3%

様式第3号

領域	ねらい	評価項目	項目番	達成目標	当該重点目標	昨年度の実績
保健指導	心身の健康の保持・増進	病気予防や朝食摂取等の健康増進のための取組を推進する。	16	朝食摂取率を維持するとともに、病気予防のための取組を推進する。	ウ	「ほけんだより」等を通して予防啓発を行うと共に薬用石鹸や消毒液の設置や換気の徹底により病気予防に努めた。 朝食摂取率　中等部：97.4% 高　校：95.4%
		薬物乱用・喫煙・飲酒等の身体的影響に関する指導の充実を図る。	16	学校薬剤師や警察などの外部機関との連携の下に、薬物乱用等に関する指導の充実を図る。	ウ	薬学講座 中等部6月13日実施 高　校7月13日実施 警察と薬剤師との連携で実施できた。
図書館活用指導	読書指導の推進	朝読書等、読書指導の充実を図る。	17	月平均読書量１冊以上	ア	全校読書会を実施した。 月平均読書量中等部：2.17冊 高　校：1.38冊
	図書館活用の促進	図書館を活用した学習活動の充実を図る。	18	図書館利用ガイダンス、図書館だよりの発行、図書館アワー等により図書館活用の促進を図る。	ア	図書館利用ガイダンス（新入生対象）やディスプレイの工夫、「図書館便り」「らいぶらりい」「図書館の36冊」を発行し図書館活用の促進を図った。
教職員の資質向上	教職員の資質能力の向上	教職員の人権意識の高揚と、教育公務員としての倫理観・使命感の向上を図る。	19	教職員の倫理観・使命感の向上を図る研修を実施する。	ア	朝の打ち合わせや職員会議を活用して教育公務員としての倫理観・使命感の向上を図った。
		校内研修の充実を図る。	19	今日的な教育課題に対応するための研修会を３回以上実施する。	ア イ ウ	9月以降、不祥事防止研修を月1回の割合で実施した。
		各種研修への参加と研修成果の校内での活用を図る。	19	職員会議等において研修会報告を実施する。	ア イ ウ	職員会議等で研修会の報告を行った。
教育相談	相談体制の充実	相談しやすい環境づくりを推進する。	20	相談室だよりの発行、ピアサポートトレーニングを通して精神疾患に対する予防を行う。	ウ	中高生徒、保護者から多くの相談があり、スクールカウンセラーを中心にした相談体制が定着した。
		校内外における連携体制を整備する。	20	職員会議等において支援を要する生徒に関する情報交換を実施するとともに、外部機関との連携を図る。	ウ	各学期ごと、職員会議において支援を要する生徒に関する情報交換を行った。ケース会議を4回開き組織で対応することができた。
福利厚生	教職員の健康の保持・増進	教職員の心身の健康の保持・増進を支援する。	21	職員安全衛生委員会を月１回程度実施する。	該当なし	職員安全衛生委員会を年12回開催するとともに校医による健康講話やAED研修等を実施し、教職員の健康増進や職場環境の改善に努めた。
危機管理	危機管理に関する校内体制の整備	学校や地域の状況を踏まえた学校独自の危機管理マニュアルに基づく実践的な訓練により学校の危機対応能力の向上を図る。	22	危機管理に対し、研修や訓練等を通して教職員の意識高揚を図る。	該当なし	防災マニュアルを見直し、行事ごとに避難マニュアルを作成した。実質的な防災訓練を２回、及び図上訓練を実施し、防災意識を高めた。
事務部運営	教育活動の支援	教務部との連携を図り、教育活動を支援する。	23	毎日の職員打ち合わせ及び職員会議、運営委員会への事務職員の出席率100%	カ	交代で出席し、達成できた。
	親切・丁寧な応対の徹底	生徒及び来訪者等に対して親切・丁寧な応対を行う。	24	生徒及び来訪者等に対して親切・丁寧な応対を行う。	カ	苦情等はなく、ほぼ達成できた。
	学校事務の効率化	常に創意・工夫した事務改善を図る。	25	一事務室一改革	カ	無駄を省くことで事務改善に努め、効率を高めた。
	学校経営予算に基づく予算の編成及び執行	当該年度の重点的取組を推進するための予算編成を行うとともに、計画的に予算を執行する。	26	各四半期別執行計画書の予算執行率100%	カ	節約と現状に合った予算配分のため職員の要求を取り入れた計画的な予算執行ができた。
	教育環境の整備	施設・設備の整備充実を図る。	27	点検表を作成し、校内の施設・設備の点検を毎週１回実施	カ	校内巡視を行い、施設・設備の破損等を早期に発見し、修理等に努めた。

様式第3号

〔学科〕

領域	ねらい	評価項目	項目番号	達成目標	当該重点目標	昨年度の実績
芸術科	芸術の諸能力を伸ばし、芸術に対する感性を高める学習の充実	専門分野の知識・技能の向上を図るため、指導内容や指導方法を工夫・改善する。	47	生徒による授業評価を年間２回実施し、授業改善を図る。	ア	音楽では校内演奏会・サマーコンサート・卒業演奏会を、美術ではデッサンコンクール・美術科展をそれぞれ通して、専門の知識・技能の一層の向上を図った。
		一流の芸術家の表現活動や芸術作品に触れる機会を設ける。	48	公開レッスン（音楽）、実技講習会、アートセミナー（美術）を実施する。	アイ	著名な演奏家を招いての公開レッスン4回(音楽)、アートセミナー、実技講習会、モデルデッサン会等を実施し、芸術に触れる機会を設けて感性を高めた。

〔教育課題〕

領域	ねらい	評価項目	項目番号	達成目標	当該重点目標	昨年度の実績
情報教育	情報化に対応できる能力の育成	情報活用能力の育成を図る。	53	教科「情報」の指導の充実を図るとともに、各教科におけるパソコン室の活用を推進する。	ア	情報・技術の授業以外での、パソコン室の稼働率が上がった。
		情報モラルの育成を図る。	54	教科「情報」や「総合的な学習の時間」等を通して情報モラルの育成を図る。	ウ	教科「情報」や「総合的な学習の時間」において情報リテラシー教育を実施した。
国際理解教育	異文化理解の推進とコミュニケーション能力の育成	多様な文化、歴史等を学習する機会の充実を図る。	55	海外研修旅行及びその事前・事後研修の充実を図る。	イエ	海外研修旅行を踏まえ、事前・事後研修において異文化理解に努めた。
		国際交流体験の機会を充実するとともに語学教育の充実を図る。	56	海外研修旅行を踏まえ、語学教育の充実を図るとともに国際交流体験の機会の充実を図る。	イエ	中3生が韓国語、高2生がフランス語会話の授業を行った。また韓国では大学生と一緒に食事を取りながら交流し、フランスでは音楽・美術に触れる機会を設け、異文化体験の機会を持った。
人権教育	確かな人権感覚の育成	教科・特別活動等において、計画的に人権教育を推進する。	57	教科、特別活動等における人権教育の充実を図る。	ア	地歴・公民科、体育科、家庭科等の授業において人権教育を実施した。
環境教育	自然を大切にする心と実践的な態度の育成	体験的な活動を通した環境教育を推進する。	58	職員を含め、資源の有効利用を促進し、ゴミの軽減に努める。	ア	美術専攻生による節電エコシールの制作や生徒会による啓蒙活動を通して節電や資源の有効利用を呼び掛け、前年比13%減の電力削減を達成した。 ふじのくにエコ・チャレンジCupでグランプリを受賞した。
福祉教育	他人を思いやる心など豊かな人間性の育成	高齢者や障害のある人などへの理解を深める体験活動を推進する。	59	保育体験活動を継続して実施するとともに、福祉委員会を中心とする活動の充実を図る。	アエ	近隣の保育園と連携し保育体験活動を実施した。
防災教育	防災意識及び防災対応能力の育成	大規模地震等に対する防災能力の向上を図るため、実践的な防災訓練を実施する。	60	実践的な防災訓練を年間２回実施するとともに、職員の防災意識の高揚を図る。	エ	実践的な防災訓練を2回、図上訓練を1回実施した。
		高校生が地域防災の担い手としての役割を果たせるよう、地域と連携しながら防災体制の充実を図る。	61	地域防災訓練の参加率30%以上	エオ	地域防災訓練の参加率 中等部：47.8% 高　校：43.4%

〔その他〕

領域	ねらい	評価項目	項目番号	達成目標	当該重点目標	昨年度の実績
中高一貫教育	中高一貫教育の充実	中高一貫教育校として、６年間を通じて特色ある教育を展開するために、校内体制の充実を図る。	なし	中高の連携強化のために学習交流などの行事の充実を図る。 新たな中高一貫教育の研究を実施する。	ア	異学年交流を毎学期実施した。 中高一貫充実期の中3と高1の連携について重点的に研修し、今後の課題と在り方について意見の集約に努めた。